

輝かしい「ふるさと成田」の将来に向けて

令和4年3月議会が2月18日～3月17日に開かれ、令和4年度予算などが審議されました。同議会の冒頭で小泉市長が語った施政方針の概要をお知らせします。



施政方針演説をする小泉市長

ど、希望の光が見えてきた矢先、

感染力が強いとされる新たな変異

株「オミクロン株」の感染が急拡

大し、誰もが、いつ、どこで感染

するか分からない状況となりました

た。こうした状況に歯止めをかけ

られるかは、私たち一人一人の慎

重な行動にかかっております。

市民の皆さまにおかれましては、

引き続き最大限の警戒と感染対策

の徹底をお願いするとともに、ワ

クチン接種へのご協力をいただき、

感染拡大防止を市民一丸となって

進めてまいります。

令和4年度の予算の編成におい

ては、財政調整基金などの各種基

金の活用により、市民サービスの

維持・拡大を図りました。

また、総合計画「NARITA

みらいプラン」に掲げた将来都市

像の実現に向け、事業の選択と集

中を行いました。そして、限られ

た財源を重点的かつ効率的に配分

し、市民サービスの向上や新たな

まちづくりに積極的に取り組むと

ともに、アフターコロナを見据え、

観光業、商工業、農業に対する経

済対策などを強力に推進してまい

ります。

一般会計では、対前年度比2

パーセント増の62.4億円、特別

会計および地方公営企業会計を加

えた全体では、2パーセント増の

約9.48億円の予算となりました。

また、空港関連従事者の皆さまを

はじめ、市民の皆さまの生活に大き

な影響を与えました。

そして、長きにわたるコロナ禍

を乗り越え、

希望の光が見えてきた矢先、

感染力が強いとされる新たな変異

株「オミクロン株」の感染が急拡

大し、誰もが、いつ、どこで感染

するか分からない状況となりました

た。こうした状況に歯止めをかけ

られるかは、私たち一人一人の慎

重な行動にかかっております。

市民の皆さまにおかれましては、

引き続き最大限の警戒と感染対策

の徹底をお願いするとともに、ワ

クチン接種へのご協力をいただき、

感染拡大防止を市民一丸となって



上空から見た公津の杜周辺

今年、私が平成19年1月に市長に就任してから16年目となり、4期目の総仕上げの年となります。この間、未来を見据えた次世代に誇れるまちづくりを積極的に推進し「住んでよし 働いてよし 訪れてよし」の生涯を完結できるまちの実現に向けて、全身全霊をささげて市政運営に取り組んでまいりました。

昨年10月以降、新型コロナウイルス感染症の新規感染者は少ない数で推移し、社会経済活動の回復に向けた取り組みも再開されるな

主要な施策への取り組み

新型コロナウイルス感染症の流行は、国内外からの観光客の減少などに伴う社会経済活動の停滞をもたらすなど、市内事業者の皆さま

ま、空港関連従事者の皆さまをはじめ、市民の皆さまの生活に大きな影響を与えました。そして、長きにわたるコロナ禍



3年ぶりの開催が期待される成田祇園祭

での制限された生活を通して、改めてまちのにぎわいと活力が人々の心を豊かにすることを実感いたしました。

そこで、社会全体に漂う閉塞感を打破するとともに、疲弊した地域経済を下支えするための経済対策と市民生活の支援、さらに、社会状況に応じた施策を積極的に展開することにより、市民の皆さまと一丸となってコロナ禍を乗り越えていく所存です。

始めに、経済対策では、観光施策として本市の主要観光行事である「成田太鼓祭」や「成田祇園祭」「成田伝統芸能まつり」「成田弦まつり」の3年ぶりの開催に向け、今までの盛り上がりとなるよう関係団体と連携しながら内容の

充実について支援を行ってまいります。

また、成田祇園祭に合わせた山車人形展のほか、新たなイベントとして、5月には成田市御案内・市川海老蔵丈のご協力をいただきながら「歌舞伎のまちナリタ」をPRするため「成田伝統芸能まつり春の陣」を実施いたします。

さらに、商工業振興施策として、市内での消費を喚起し、売り上げが減少している市内事業者を支援するため、第3弾となる「なりた地域応援プレミアム付商品券」を発行いたします。

次に、市民生活への支援施策では、子育て世帯への支援として、子どもの保健対策の充実を図るとともに、子育て世帯の経済的負担を軽減するため、4月から子どもへの医療費助成の対象を高校生相当年齢まで拡充してまいります。

また、学校給食では、市立の小中学校などに通う第3子以降の児童・生徒の給食費を無料とし、保護者の経済的負担の軽減を図ってまいります。

農業については、新型コロナウイルス感染症の影響による外食産業の消費減退や、食生活の多様化などに伴う主食用米の需要減少によって米価が大幅に下落していま

す。また、原油価格や肥料価格の値上げも重なり、農業経営は大きな影響を受けております。

このことから、本市では米の需給と価格の安定を図るため、大豆・麦や加工用米、飼料用米への作付け転換などにより、需要に応じた主食用米の生産を推進してまいります。さらに、認定農業者と営農集団に対し、機械施設の導入にかかる支援を拡充することにより、生産コストの削減による農業所得の向上に努めてまいります。

次に、社会状況に応じた施策では、交通安全対策として、高齢者による交通事故を未然に防止するため、運転免許証を自主的に返納した高齢者に対して1万円相当の交通系ICカードを交付することにより、自主返納を促進する取り組みを行ってまいります。

また、通学路の安全対策にかか

る予算の拡充を図るなど、地域の課題に応じて必要な改善に努めてまいります。

1月20日に開場した新生成田市場では、令和3年の日本の農林水産物・食品の輸出額が、初めて1兆円に到達したことを絶好の機会と捉え、市場関連事業者だけでなく、空港関連企業なども事業者間の垣根を越えて連携し、新生成田市場の取り組みや地域の農水産物のおいしさに関する情報の発信を積極的に行うことで、本市をはじめとする日本の農水産業の発展に貢献してまいります。

また、海外からも高い評価を受けている日本の食文化を、空港を利用する国内外のお客様などが気軽に楽しめるよう、集客施設につきましても、できるだけ早期に整備することにより、食によるにぎわいの創出も図ってまいります。

安全・安心でうるおいのある生活環境をつくる

防災施策では、自然災害からの被害を最小限にとどめるため、急傾斜地や崖地の崩壊対策、治水対策、建築物の耐震化、上下水道施設の更新による安全・安心なライフラインの確保などの防災・減災

対策を総合的に推進し、災害に強いまちづくりを進めてまいります。また、災害危険区域や避難所などを分かりやすく地図上に示した防災マップの更新を行い、市内全世帯への配布を進めてまいります。



定期的な訓練で安全・安心を

航空機騒音地域における防災行政無線については、引き続きデジタル波に対応した戸別受信機への更新を行い、災害時などの市民への情報伝達体制の整備を進めてまいります。

消防体制については、地域防災の中核的な役割を担う消防団員の出動手当と年額報酬を見直すなど処遇改善を図るとともに、引き続き消防団の組織体制の充実強化を推進してまいります。

環境施策では、脱炭素社会の実現に向け、ゼロカーボンシティを目指す上で道筋を示す計画となる環境基本計画の見直しを行うとともに、地球温暖化対策を市民と事業者の皆さまとの協働により推進

することで、持続可能で地球環境にやさしいまちづくりを進めてまいります。

また、循環型社会の構築を目指す

健康で笑顔あふれ、共に支え合う社会をつくる

し、ごみの発生抑制、再使用、再利用の3Rを進めるため、ごみ処理の適正化やごみの減量化・再資源化に取り組んでまいります。

を行うなど、保育環境の充実に努めてまいります。

母子保健については、妊娠期から出産・子育て期にわたり、切れ目のない支援を行う子育て世代包括支援センターの産後ケア事業において、産院などに宿泊して支援を受ける短期入所型が、昨年10月から、新たに市内の産科医療機関での利用も可能となり、より身近な場所での利用ができるようになりました。

4月には、私立による本市初の幼保連携型認定こども園と、認可保育所から移行する保育所型認定こども園が開園する予定です。これにより、新たに保育の受け皿が確保され、待機児童の解消に向けて大きく前進するものと期待しております。

さらに、地域型保育事業所などの健全な運営を促進する支援を行うとともに「なりた手当」の支給や月額給与の3パーセント程度の引き上げによる保育士の処遇改善



一人一人に寄り添い支え合う

がん患者などへの支援については、新たにがん治療に伴う外見の変化を補うためのウィッグや、胸部補整具の購入などに要する費用の一部を助成することにより、がん患者の精神的・経済的負担を軽減するとともに、療養生活の質の向上を図り、就労継続などの社会参加の支援に努めてまいります。福祉施策については、認知症や知的障がい・精神障がいなどにより判断能力が十分でない人の権利

擁護支援の役割を担う「成田市成年後見支援センター」を設置し、誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるよう支援してまいります。

また、高齢者などの介護を支え

地域文化を生かし、未来を担う心豊かな人材を育む

学校教育に関する施策を総合的に推進するため「輝くみらいNARITA教育プラン」に基づき、子どもたちの個々の能力を伸ばし、将来に夢と希望を持ち、自分の進むべき道を切り開く力を育む教育を推進してまいります。

また、学校の内外でさまざまな

る人材が不足していることから、引き続き介護職員の資格取得のための費用助成や、定着を支援する「介護版なりた手当」の支給を行うことで介護人材の確保・定着を図ってまいります。

援を行ってまいります。教育環境の充実については、1人1台の学習用端末や高速ネットワークなどの情報通信技術、いわゆるICTを活用した効果的な教育を進めていくとともに、教員が授業を円滑に行うためのサポートと負担軽減を図ってまいります。

困難を抱える児童・生徒が安心して学校生活を過ごせるよう、教育委員会内にスクールソーシャルワーカーを配置するなど、関係機関との連携を図りながら、一人一人の状況に応じたきめ細やかな支援を実施してまいります。

空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる

成田空港の更なる機能強化では、騒防法の新たな告示に伴い、各種防音工事助成における対象区域の拡大や制度の拡充が図られており、関係機関と協力しながら引き続き防音工事の推進に取り組むとともに、生活環境の保全に向けた騒音対策の一層の充実に努めてまいります。また、騒音地域の振興策については、地域の皆さまの意見を伺いながら、特性や要望などを踏まえて検討してまいります。



機能強化が進む成田空港

都市基盤整備については、更なる機能強化による空港周辺地域への波及効果を最大限に受け止めるため、新たな開発需要や人口増加に適切に対応した良好な都市機能と住環境の整備を図るとともに、スマートインターチェンジ構想に

活力ある産業を育て、にぎわいや活気を生み出すまちをつくる

ワクチンの普及などにより期待される観光需要とともに、地域経済をはじめとする「まち」のにぎわい回復に向けて、成田山新勝寺と表参道を核とした魅力あるさまざまなイベントを開催するなど、さらなる観光施策を推進してまいります。

そして、宿泊施設のバリアフリー化に対する補助を継続して実施することにより、共生社会実現に向けた取り組みを図ってまいります。

また、戦略的かつ効果的な情報発信として、観光キャラクター「うなりくん」の高い知名度やSNS広告などを活用した情報発信を積極的に展開するなど、本市のシティセールスに努めてまいります。

さらに、ふるさと納税のポータ

による空港周辺の産業促進と物流機能の強化に向けた都市基盤を整備するため、吉倉・久米野地区や不動ヶ岡地区、東和田南部地区における組合施行の土地区画整理事業の実施に向けて、引き続き支援してまいります。

ルサイトを拡充し、特色ある地場産品や体験メニューなどを紹介することで成田ブランドのPR強化にも取り組んでまいります。

商工業振興については、成田空港の更なる機能強化や、圏央道・北千葉道路などの広域交通ネット



うなりくんを活用して市外にもPRを

ワークの整備の進展などにより、今後、医療関連産業や物流関連施設などの企業立地が見込まれることから、昨年4月に拡充した企業立地制度に基づき新たな企業の誘致を図るとともに、既存企業の事業拡大に伴う再投資を支援することで、産業の振興と雇用の創出を図ってまいります。

農業については、農業従事者の高齢化や担い手不足などが深刻となっている現状を踏まえ、持続可能な力強い農業を実現するため、地域農業における中心経営体や地域農業のあり方を明確化した「人・農地プラン」の策定を積極

市民サービスを充実させ、持続可能な自治体運営を行う

少子高齢化やデジタル社会の進展に加え、新型コロナウイルス感染症による価値観の変化や多様化など、地域社会を取り巻く環境が大きく変容している中、本市が今後も持続的に発展を続けていくためには、市民ニーズを的確に捉えるとともに「成田らしさ」を発揮した魅力あるまちづくりを推進し、より戦略的かつ実践的な財政運営を行っていくことが必要です。

そのような中、本市の総合的

的に推進し、地域農業の問題を集落で解決できるような組織の育成を図ってまいります。

また、地域ぐるみで農地の適切な保全管理を行う共同活動に対する支援や、農道・農業用排水路の計画的な整備を一体的に行い、担い手農家の負担を軽減することで、農地の集積・集約化に取り組んでまいります。

さらに、台風などの自然災害が及ぼす森林の倒木などによる、道路や電線などの重要インフラ施設への被害の未然防止・軽減のため、災害に強い森林づくりを推進してまいります。

つ計画的な行政運営を図るための指針である総合計画「N A R I T A みらいプラン」について、将来都市像の実現に向けての集大成となる、令和6年度からの4年間の計画期間とした第3期基本計画の策定に取りかかります。

また、持続可能な財政基盤の強化では、新たな自主財源確保策として、中台運動公園や大谷津運動公園、文化芸術センターに施設命名権制度を導入いたします。

2月に開催された北京オリンピック冬季大会では、オリンピックに臨む日本選手の姿勢がさまざまなドラマを生み、私たちに大きな感動をもたらすとともに、夢や希望を与えてくれました。

中でも特に印象に残ったのはスキージャンプの高梨沙羅選手です。混合団体戦で1回目に103メートルの大ジャンプを披露しましたが、まさかの失格となりました。通常の精神状態ではない失意の中、仲間を信じて2回目のジャンプに挑戦し、98・5メートルの大ジャンプを成功させた精神力に感動しました。

そして、スノーボード男子ハーフパイプの平野歩夢選手は最高難度のトリプルコーク1440という大技を成功させながら思った通りの評価点が出ず、込み上げる怒りを集中力に変えて3回目の演技に臨み見事金メダルを獲得し、日本中を歓喜させてくれました。

私も両選手の果敢な挑戦に負けぬよう、わが「ふるさと成田」の未来が、夢や希望に満ちあふれた輝かしいものとなるよう、たゆまぬ努力と情熱により市民の皆さまのニーズや課題を的確に捉え、柔軟な発想で将来を見据えた施策に果敢に取り組んでまいります。